



(2000円) 特 許 願

昭和48年07月28日

特許庁長官 三宅幸夫 殿

1 発明の名称 トウキ ジドウシャ
冬期における自動車タイヤの
グリップ防止法

2 発明者

住 所 特許出願人に同じ
氏 名

3 特許出願人

住 所 三重県桑名市飯田58
氏 名 アキ ヤマ ユキ オノ

4 代理人 郵便番号510

住 所 四日市市緑防町4番15号
氏 名 (4520) 弁理士 野崎四郎兵衛

5 添付書類の目録

1 明細書 1 通
2 図 面 1 通

明 細 書

1 発明の名称 冬期における自動車タイヤの
スリップ防止法

2 特許請求の範囲

自動車タイヤに向け自動車のフエンダー部等の
ボデーよりノズルを対向させ、外気より約数度低
下するように空気をタイヤに吹付けることを特徴
とした冬期における自動車タイヤのスリップ防止
法。

3 発明の詳細な説明

本発明は冬期における自動車タイヤのスリップ
防止法に関する。

従来冬期のアイスパン状の路面を自動車で走行す
るに当つてはタイヤチェーンを巻着したりスノー
タイヤを装着していたが、なお且つスリップを防止
できない場合が多かつた。

本発明はかかる点に着目して創作されたもので、自
動車タイヤに向け自動車のフエンダー等のボデー
よりノズルを対向させ、外気より数度低下するよ
うに空気をタイヤに吹付けタイヤの摩擦面による

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 50-100703

④ 公開日 昭50.(1975) 8. 9

② 特願昭 48-85141

② 出願日 昭48.(1973) 7. 28

審査請求 有 (全2頁)

庁内整理番号

7104 36
6927 36

⑤ 日本分類

77 B7
80 K6

⑤ Int.Cl²

B60B 39/00
B60B 39/08

温度の上昇を防止し、アイスパン状の路面の表面
をタイヤ熱によつて解凍することを防止し、スリ
ップを著しく減少するようにしたことを特徴とす
る冬期における自動車タイヤのスリップ防止法で
ある。

今、本発明について実施例を図面を参照しつつ
説明する。

自動車タイヤに向け、自動車のフエンダー部等
のボデーよりホース等を介してノズルを対向
させ、外気より約-7℃で低下するように空気を
タイヤに向け自動車用に改良された低温空気発生
装置(図示せず)によつて、吹付つつアイスパン
状の路面を走行した処、著しくスリップを防止し
得た。実験した結果においては外気とタイヤに
吹付けた温度差が約-7℃後者が低い場合が効率
よく、温度差が約-7℃より少なくなるにつれスリ
ップし易くなり、-3℃以下では普通のチェーン巻
着しただけのタイヤやスノータイヤと変わらないス
リップ状態となる。又反対に外気よりタイヤの温
度が上昇するに従つて、スリップは益々顕著とな

る。又外気が -15°C 以下の寒冷地においての実験のデータは現在の処無いが、タイヤノは温度を下げなければ摩擦熱で温度が上昇し、スリップが生ずることは通論的に推定できる。

以上の実験を更に高付けるため次のような実験を試みた。

自動車 0°C 以上の屋内に数分収納しておき、アイスパン状の路面に走出した処、スリップが生じた。これとは反対に自動車を -10°C の冷凍室内に放置し、数分作業後アイスパン状路面に走出したところ約30%程スリップを全く感じなかつた。このことはタイヤノの摩擦熱によりタイヤノ自体の温度が上昇するとアイスパン状路面の表面が瞬時解凍し水膜を作るためと究明した。

以上の二つの実験に基づきタイヤノに吹付けた温度を約数度低下させることにより著しくスリップを減少し得たのである。

従つて、本発明によるときは自動車タイヤのスリップを著しく防止したので冬期のスリップによる人身、物損等の事故防止に効果的であり、運転

手をして極度の緊張による疲労より解放し得る効果もある。

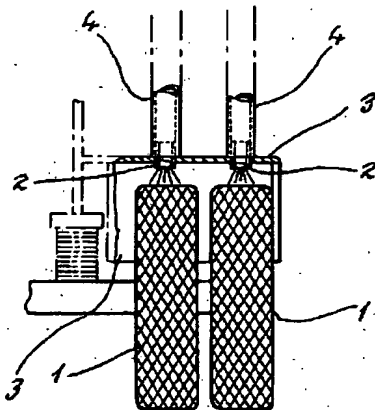
4. 図面の簡単な説明

図面はこの発明の実施態様の一例を示したもので、要部断示した装置図である。

図中、1...自動車タイヤ、2...フエンドー、3...ノズル、4...ホース。

特許出願人 秋 山 留 雄

代 理 人 野崎四郎兵衛



2 願書副本	1 通
4 出願審査請求書	1 通
5 委任状	1 通